



TAMIL NADU
WHERE STORIES NEVER END

タミールナドゥ

物語が決して終わらない場所



TOURISM, CULTURE AND RELIGIOUS ENDOWMENTS DEPARTMENT

観光・文化・宗教基金局



M. K. STALIN

M.K.スタリン

タミールナドゥ州首席大臣

物語が生き続ける場所

タミールナドゥ (Tamil Nadu) には、世界有数の歴史を持つ文明が今も息づいています。この文明のおかげで、タミールナドゥは、インドを代表する先進的で先駆的な州として確固たる地位を築きました。

息を飲むほど美しい風景から魅力的な野生動物、荘厳な寺院、活気に溢れる祝祭、心を奪われる芸術、極上の手織布、精巧な工芸品、食欲をそそる料理の数々、人生観を変える文学、一流の製造業、最高のデジタルテクノロジー、そして、最先端を行く医療に至るまで、タミールナドゥにはすべてが揃っています。最高のインドを体験してください。

社会正義とインクルーシブな発展を重視し、熱意を持って最高を目指すことで、タミールナドゥはさまざまな分野でリーダーとして台頭するようになりました。タミールナドゥには刺激的な逸話が集います。永遠に続く壮大な物語をお楽しみください。





K. Ramachandran

K.ラマチャンドラン

観光省大臣

コンセプト、コンテンツ、キュレーション



Dr. K. Manivasan, IAS

Dr. K. マニバサン、IAS

首席事務次官

観光・文化・宗教寄付部門

タミールナドゥ観光推進公社



内容の検証

Sandeep Nanduri, IAS

サンディープ・ナドゥリ、IAS

観光ディレクターおよび代表取締役

タミールナドゥ観光推進公社



目次

06 手付かずの風景が紡ぐストーリー

- 07 コダイカナル
- 08 最果ての地
- 09 ヴァルパライ
- 10 ピチャヴァラム
- 11 テンカシ
- 12 カンニヤークマリ
- 13 ウーティ
- 14 コリーヒル
- 15 メガマライ

16 古代遺産の物語

- 17 ガンガイコンダ・チョーラプラム
- 18 マハーバリプラム
- 19 タンジャーヴェール
- 20 カンチープラム
- 21 ダーラースラム

22 王宮の物語

- 23 タンジャーブル 宮殿
- 24 トランケバー 砦
- 25 ティルマナイ・ナーヤカ 宮殿
- 26 カナドゥカタン 宮殿
- 27 トンダイマン宮殿

28 聖なる寺院の物語

- 29 スリランガム
- 30 マドゥライ
- 31 ティルヴァンナマーライ
- 32 ラメスワラム
- 33 九曜

34 神聖なる教会の物語

- 35 アナイ・ヴェランカンニ教会
- 36 聖母の教会、トゥティコリン
- 37 サントメ大聖堂、チェンナイ
- 38 聖十字架教会、マナパッド
- 39 ラ・サレット教会、コダイカナル

40 仏教の物語

- 41 はじめに
- 42 チェンナイ博物館の仏像
- 43 チュダマニ・ビハーラ寺院、ナガパ
ッティナム
- 44 シヤガヌール、セーレム
- 45 菩薩達磨寺院 - カンチープラム
- 46 プープハー
- 47 アリヤルール

48 ジャイナ教の物語

- 49 はじめに
- 50 アリタパティ、マドゥライ
- 51 タミルブラーミの碑文、カルール
- 52 ティーロキヤナサージーナスワミ寺院
- 53 ティルマライ、ティルヴァンナーマライ
- 54 サマナマライ、マードゥライ
- 55 ティラッコイル、ティルヴァンナーマ
ライ

56 活気に溢れた祭の物語

- 57 ジャッリカトゥウ
- 58 ポンガル
- 59 クラサイドウッセラ
- 60 魅力的な芸術の物語
- 61 バラタナティアム
- 62 テルクッチュ
- 63 カラガッタム

64 工芸品の物語

- 65 アタングディのタイル
- 66 スワミマライのブロンズ彫刻
- 67 タンジャーヴェーの人形
- 68 ナチャール・コヴィル・クトゥヴィラク
- 69 カンチプラムのサリー

70 美食の物語

- 71 ランチ
- 72 チェッティナードゥ
- 73 フィルターコーヒー
- 74 コヴィルパッティ カダライミッター
- 75 ティルネルヴェリハルワ
- 76 ティフィン
- 77 マドゥライ ジガルサンダ
ライ

78 爽快な冒険の物語

- 79 カイトサーフィン
- 80 マウンテンバイク
- 81 スキューバダイビング
- 82 サーフィン
- 83 パラグライダー

物語が生き続ける場所



手付かずの風景が紡ぐストーリー



コダイカナル (KODAIKANAL)

コダイカナル (Kodaikanal) は大勢の人々が訪れる、年間を通じて涼しい丘陵地帯であり、湖や滝、松林、丘が点在します。とりわけエコーポイント、グナ洞窟、ベリジャン湖がおすすめのスポットです。



最果ての地 (LAND'S END)

ラメスワラム島 (Rameswaram Island) の先端に位置するアリチャルムナイ (Arichal Munai) はインド最果ての地と呼ばれ、およそ 25 キロ進むとスリランカにたどり着きます。この最果ての地、アリチャルムナイ (Arichal Munai) では、ベンガル湾とインド洋が交わり、波となって砂浜に押し寄せます。



ヴァルパライ (VALPARAI)

ヴァルパライ(Valparai)は、数多くの滝が流れる美しい景勝地であり、紅茶やコーヒー、カルダモンの生産地として知られています。さまざまな場所から一面に広が茶畑を眺められ、アナマライ(Anamalai)のトラ保護区では自然散策を楽しめます。

ピチャヴァラム (PICHAVARAM)

ピチャヴァラム(Pichavaram)は西ベンガルのスンダルバンス(Sundarbans)に次ぐ広さを誇る広大なマングローブの森です。ゆっくりと森の中をボートで進むと、美しい鳥や動植物に巡り合えます。

テンカシ (TENKASI)

テンカシ (Tenkasi) の観光スポットは、西ガッツ (West Ghats) を起点にチッタール (Chittar) 川に沿って流れる大小さまざまな滝です。これらの滝の水には治癒力があると言われることから、テンカシ (Tenkasi) は「南インドのスパ」と呼ばれます。



カンニヤークマリ (KANNIYAKUMARI)

壮大なインド洋にそびえ立つティルヴァッルヴァル像は、2500年前に書かれた133の章からなる詩集「ティルックラム」を象徴します。この詩集は、1330点の「クラル」の中で徳や富、愛や自由を説き、人間が正しい生活を送る上での指南書としての役割を果たしています。



ウーティ (OOTY)

ニルギリス (Nilgiris) 地区に位置するウーティ (Ooty) はインドを代表する避暑地の一つです。この地域の気候は特定のフルーツや野菜、茶葉、花の栽培に適しているため、農業や園芸が盛んに行われています。

コリーヒル (KOLLI HILLS)

東ガッツに広がるコリーヒル (Kolli Hills) は、かつて慈悲深いタミル (Tamil) の王ヴァルヴィル・オーリ (Valvil Ori) が統治していた美しい山地です。70か所を超えるヘアピンカーブが点在し、大勢のバイク愛好家がツーリングに訪れます。また、タミル族の居住地でもあります。

メガマライ (MEGHAMALAI)

起伏の激しい山地として知られるメガマライ (Meghamalai) はタミールナドゥ(Tamil Nadu) の西ガッツにあるターニ市 (Theni) に山脈に位置し、近郊にはKumily (クミリー) があります。海拔1,500メートル級の山々が連なり、多くの動植物が生息します。



古代遺産の物語



ガンガイコンダ・チョーラプラム (GANGAIKONDA CHOLAPURAM)

アリヤルル (Ariyalur) のガンガイコンダ・チョーラプラム (Gangaikonda Cholapuram) 寺院はUNESCOの世界遺産に認定されています。この寺院の名称は、「ガンガイ・コンダ・チョーラン」とも呼ばれた国王のラジェンドラ・チョーラ1世にちなんでつけられました。チョーラ1世は当地を支配し、ガンジス川上流まで領土を広げた後、国王の称号を得ました。

マハーバリプラム (MAMALLAPURAM)

UNESCOの世界遺産に指定されているマハーバリプラム (Mamallapuram) には、パラヴァ王朝の国王の命により7世紀と8世紀に建てられた多くの寺院に加え、洞窟や彫像を見ることができます。さまざまな遺跡の中で中心的な存在とされているのが海岸寺院です。



タンジャーヴール (THANJAVUR)

タンジャーヴール (Thanjavur) 寺院は世界で最も高い
仏塔を持ち、その上部の構造物の重量は70トンを超え
ます。チョーラ朝建築の最高作品と位置づけられてお
り、UNESCOから「世界遺産」に認定されています。



カンチープラム (KANCHEEPURAM)

伝統的なパラヴァ建築の影響を受けたカイラサナータル (Kailasanathar) 寺院にはインド最古のカリグラフィ作品が貯蔵されています。パラヴァ王朝の国王、ナラシムハ・ヴァーマン (Narasimha Varman) の命により建立されたこの寺院に関して、多くの歴史家は南インドの多くの寺院にインスピレーションを与えたと考えています。



ダーラスラム (DARASURAM)

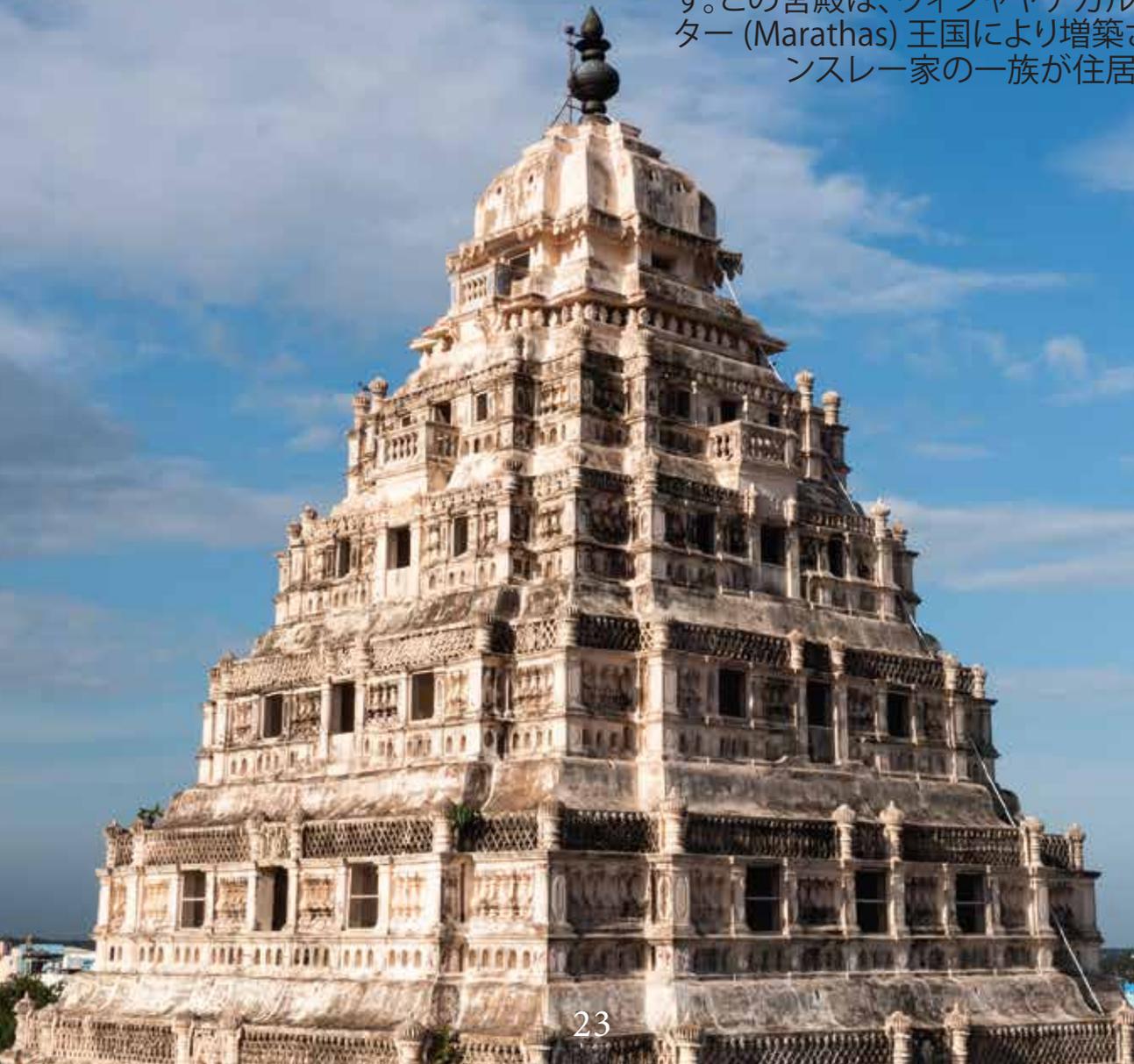
ダーラスラム (Darasuram) のアイラーヴァテシュワラ (Airavatesvara) 寺院は、現存するチョーラ朝時代の寺院の中でも特に素晴らしく、その建築と遺産的価値を認められ、UNESCOから世界遺産に認定されています。この寺院で発見された精巧な石の彫刻はまさに石に刻まれた詩です。



王宮の物語

タンジャーブル 宮殿 (THANJAVUR PALACE)

1550年にヴィジャヤナガル・ナヤカ (Vijayaraghava Nayak) の命により建てられたタンジャーブル (Thanjavur) 宮殿には、建築様式を独自に融合しています。この宮殿は、ヴィジャヤナガル王国を滅ぼしたマラーター (Marathas) 王国により増築されました。今でもボースレー家の一族が住居として利用しています。



トランケバー 砦

(TRANQUEBAR FORT)

ベンガル湾の沿岸に位置するトランケバー (Tranquebar) 砦は世界で2番目に大きなデンマークの砦です。この砦はチョーラ王国とデンマークの貿易活動を支援するため、17世紀に建設されました。



ティルマナイ・ナーヤカ 宮殿 (THIRUMALAI NAYAKAR MAHAL)

1636年にティルマラ・ナーヤカの命を受けた建てられたティルマナイ・ナーヤカ (Thirumalai Nayakar) 宮殿は、イタリア建築とドラヴィダ建築を融合した建築物です。レンガ造りに葉形飾りを施したこの宮殿は、高さ約25メートル、幅約4メートルの柱で支えられています。





カナドゥカタン 宮殿 (KANADUKATHAN PALACE)

カナドゥカタン (Kanadukathan) 宮殿は、インド銀行とチダンバラム (Chidambaram) のアンナマライ大学を創設した、M. アナンマリ・チャティア (Annamalai Chettiar) 国王によって建てられました。チャティナド・マハラジャ (Chettinad Maharaja) の宮殿の異名を持つこの豪邸は、インドとヨーロッパの影響を受け、マンマー産チーク材が組み込まれている他、複雑なチャティナド様式を設計に採用しており、芸術、建築、伝統を見事に組み合わせた建造物と言えます。



トンダイマン宮殿 (TONDAIMAN PALACE)

ラジャゴパラ・トンダイマン (Raja Rajagopala Tondaiman) 国王は、プドゥコッタイ (Pudukottai) 村にある敷地面積99エーカーに及ぶ宮殿を寄付し、地区庁を設立しました。プドゥコッタイ (Pudukottai) 王国は1639年から約300年に渡り豊かな伝統を受け継いできました。



聖なる寺院の物語



スリランガム (SRI RANGAM)

アルルミグ・ランガナータスワーミー (Arulmigu Ranganathaswamy) 寺院は、現存する世界最大のヒンディー教寺院の一つに数えられます。カヴェリ (Kaveri) 川に浮かぶスリランガム (Srirangam) 島には、アルルミグ・ランガナータスワーミー寺院を含む寺院群が広がり、その敷地面積は65ヘクタールに及びます。



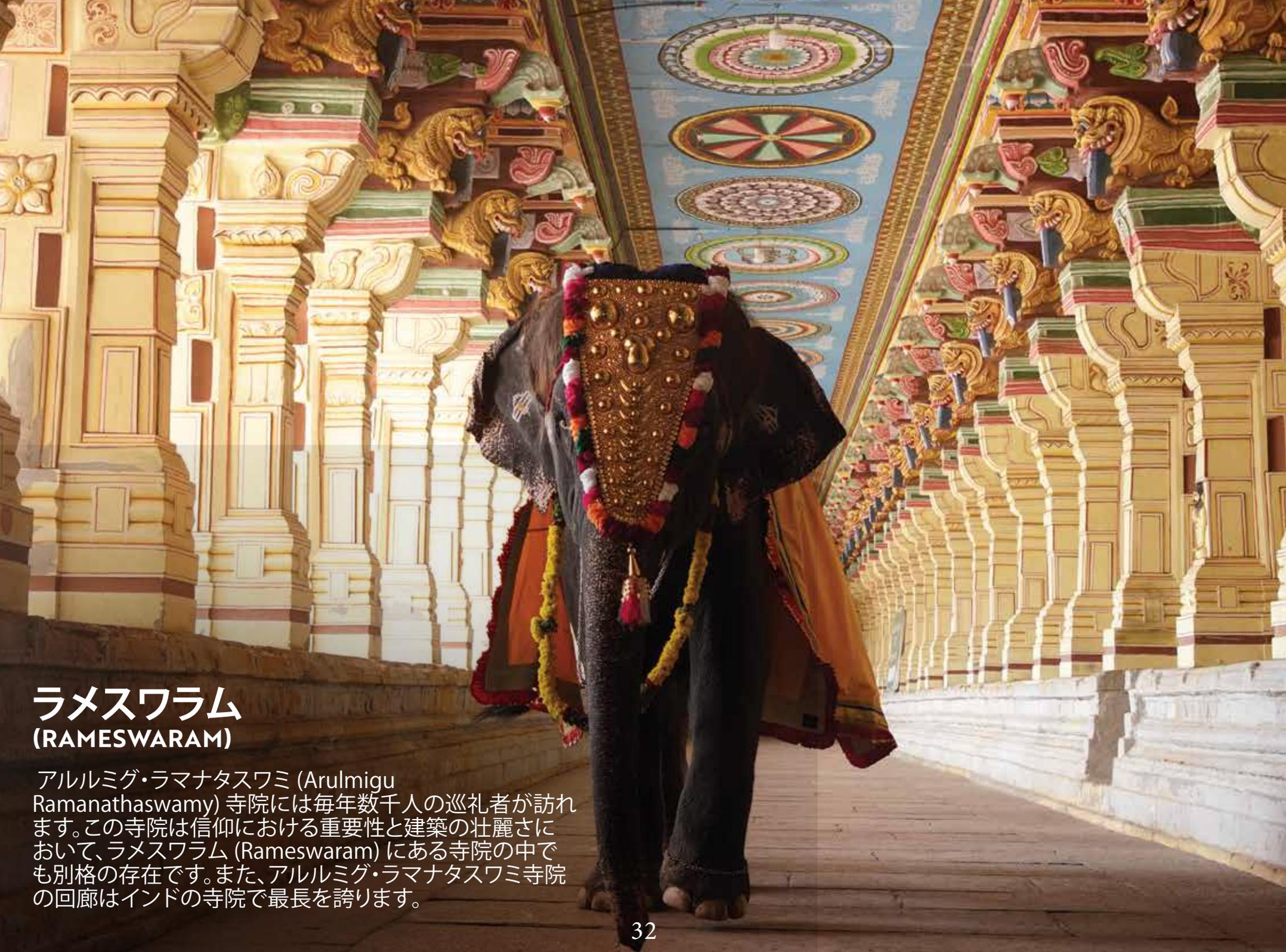
マドurai (MADURAI)

マドurai (Madurai) にあるアルールミグミーナクシサンダラスワラル (Arulmigu Meenakshi Sundaraswarar) 寺院は、パーンディア朝時代に建立され、合計14もの塔門がそびえ立ちます。各塔門は、多層構造となっており、数千点もの彫刻作品や様々な神話を象徴する像が保存されています。

ティルヴァンナーライ (THIRUVANNAMALAI)

アルルミグ・アルナーチャレスワラー (Arulmigu Arunachaleswarar) 寺院は、原始的な自然要素である火を象徴とし、シヴァ神を祀る5大寺院「パンチャ・ブースタラム」(Pancha Bootha Sthalams) の1つに君臨します。世界で8番目に大きな寺院で、シヴァ神がこの寺院で火として現れたと伝えられています。





ラメスワラム (RAMESWARAM)

アルルミグ・ラマナタスワミ (Arulmigu Ramanathaswamy) 寺院には毎年数千人の巡礼者が訪れます。この寺院は信仰における重要性と建築の壮麗さにおいて、ラメスワラム (Rameswaram) にある寺院の中でも別格の存在です。また、アルルミグ・ラマナタスワミ寺院の回廊はインドの寺院で最長を誇ります。



九曜 (NAVAGRAHAS)

タンジャヴァール (Thanjavur) にある代表的な九曜寺院は、9つの天体を神格化した寺院の集まりであり、その起源はチョーラ朝にまで遡ります。それぞれの寺院は異なる村に位置し、天体の神秘的な力を放出していると言われています。



神聖なる教会の物語

アナイ・ヴェランカンニ教会 (SHRINE ANNAI VELANKANNI CHURCH)

キリスト教の世界的な灯台として光り輝くこの有名な大聖堂は、神聖な静けさを漂わせながら、喜びに満ちた美しい憩いの場を提供します。この大聖堂は南インドのキリスト教徒から信仰を集め、大勢の人々が巡礼や観光のために訪れます。かつて賑やかだった港町のヴァランカンニ (Velankanni) は信者の巡礼の場となり、遺産都市に認定されています。



聖母の教会、トゥティコリン (SHRINE OF OUR LADY OF SNOWS – TUTICORIN)

トゥティコリン (Tuticorin) に位置する雪の聖母大聖堂 (Shrine of Our Lady of Snows) は聖母マリアに捧げる安息の地であり、ゴシック建築の代表作です。8月5日に行われる聖母の祝祭には巡礼者が集い、信仰において重要視されています。この大聖堂の極上の美しさ、そして、社会を変える信仰の力は、神聖なつながりを求める人々にとって忘れられない体験をもたらします。



サントメ大聖堂、チェンナイ (SANTHOMÉ CATHEDRAL BASILICA, CHENNAI)

16世紀に聖トーマスの墓の上に建てられた教会は、1893年に英国によってサントメ大聖堂 (Santhome Cathedral Basilica) に改修されました。この名建築は純白の尖塔を持ち、ネオゴシックの美しさが溢れ出ています。屋内のステンドグラスの窓が、木製の信者席と雄大な身廊に光の彩をもたらします。また、地下にはチャペルと博物館を備えており、熱心な巡礼者のために1年中貴重な遺物を展示しています。

聖十字架教会、マナパッド (THE HOLY CROSS CHURCH, MANAPAD)

16世紀にたてられた聖十字架教会 (Holy Cross Church) は素晴らしい文化を体現する建築物です。複雑な彫刻や神聖な雰囲気、そして、壮大な建築が信仰心を表しています。壁画や見晴らしの良い鐘楼を持つこの大聖堂は歴史と文化の双方において重要な意味を持ちます。この大聖堂に集まる地域の信者たちは、団結を促進し、信仰の遺産を引き継いでいます。



ラ・サレット教会、コダイカナル (LA SALETH CHURCH, KODAIKANAL)

19世紀を代表するラ・サレス教会は、もともとは穏やかな景色を見張らせる丘の中腹に建てられた聖堂でした。1863年にフランス人の宣教師により建てられ、寛大なベルギー人女性の支援を受けたこの聖堂は1866年にラ・サレットの聖母に捧げられ、信仰と癒しの象徴となりました。この教会はコダイカナル (Kodaikanal) で初めてのローマカトリック派教会という名誉を得ています。





仏教の物語

はじめに

タミルナドゥ (Tamil Nadu) の仏教の起源にまつわる魅力的な物語は、第3サンガム期よりはるか以前に遡ります。そして、チョーラとパルラーヴァ王朝が大きな影響力を持つ時代に復興を遂げました。この時代、東アジア諸国との海運業のつながりにより、仏教は急速に広まります。中国初の禅宗の開祖である菩提達磨はカンチェープラム (Kancheepuram) の出身であり、大乘仏教はタミルナドゥと深いつながりを持つと言われていました。また、言い伝えによると、菩提達磨は禅仏教の知恵を広めるためにタミルナドゥから出航し、海を渡ったとされています。





チェンナイ博物館の仏像 (BUDDHIST STATUES AT CHENNAI MUSEUM)

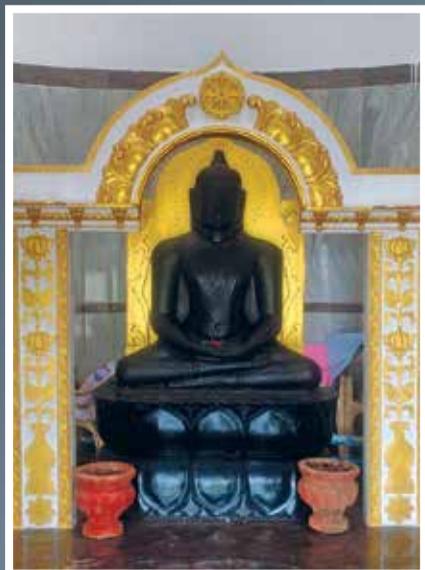
チェンナイ (Chennai) 博物館には、タミルナードゥ全域から集められた精巧な仏像が展示されています。たとえば、5世紀に作られた高さ約240センチの立像やクーヴァン (Koovam) の14世紀の仏像、カヴェリッパッカム (Kaverippakkam) の11世紀の観音菩薩、アリヤルール (Ariyalur) 地区のスサンマルリ (Suthamalli) 村とイライジュール (Elaiyur) から寄せられた13世紀の仏像が展示されており、タミルナードゥ州 (Tamil Nadu) 一帯の仏教の痕跡を追うことができます。



チュダマニ・ビハーラ寺院、ナガパッティナム (CHUDAMANI VIHAR, NAGAPATTINAM)

ライデンの銅板には、サンスクリット語とタミル語の両方でナーガパッティナム町 (Nagapattinam) のチュダマニ・ヴィハーラ寺院 (Chudamani Vihara) についての言及が記されています。その寺院はシュリヴィジャヤの王によって概念化され、その建設はチョーラ王朝のラージャラージャ 1 世 (985 ~ 1016 年) の治世中に始まり、彼の息子のラジェンドラ 1 世 (1012 ~ 1044 年) の時代にヴィハーラの建設が完成されました。1856 年以來、約 350 体もの青銅製の仏像がヴィハーラ遺跡で発見されています。





シヤガヌール、セーレム (THIYAGANUR, SALEM)

サレム (Salem) 地区の人里離れたシヤガヌール (Thiyaganur) 村で発見された2体の古代の仏像は、それぞれ異なる運命をたどりました。1体は8世紀に作られた約210センチの立派な仏像で、ヴィシュヌ (Vaishnavite) 寺院に祀られています。もう1体の仏像も同じく約180センチの堂々たる体格を持ち、同地区の坐禅堂に鎮座しています。この仏像は仏陀の教えを伝え、村人たちを悟りに導いています。



菩薩達磨寺院 - カンチェープラム (BODHI DHARMA BUDDHA VIHAR, KANCHEEPURAM)

チェンナイ (Chennai) 空港から81キロ、カンチェープラム (Kancheepuram) 駅から3キロの場所にあるこの寺院には、壮観な菩薩達磨の仏像とマニメガライ (Manimegalai) の仏像が1体祀られています。言い伝えによると、菩薩達磨は教祖の死後、526年に中国に発つまで仏教徒の僧侶としてタミル (Tamil) 社会に仕えていました。カンチプラム (Kanchipuram) での菩薩達磨の布教活動はマハ菩提達磨のサンガトラスト (Sangha Trust) の監視下にありました。



プープハー (POOMPUHAR)

タミルナードゥ (Tamil Nadu) 州に位置するプープハー (Poompuhar) はチョーラ王朝初期に港町として繁栄していました。この地は多様な文化と言い伝えがあり、祭典や貿易が盛んに行われていました。また、タミルナードゥ (Tamil Nadu) の仏教史において重要な役割を果たしました。紀元前300年頃、プハール (Puhar) を代表するこの大きな街は海に飲み込まれてしまいます。後の時代に起きた津波により、浸水被害を受けたプープハーの一部が見つかります。1~2世紀に作られとみられる貴重な仏像も発見されました。この仏像はドラヴィダ地区で最も古い仏像の可能性がります。



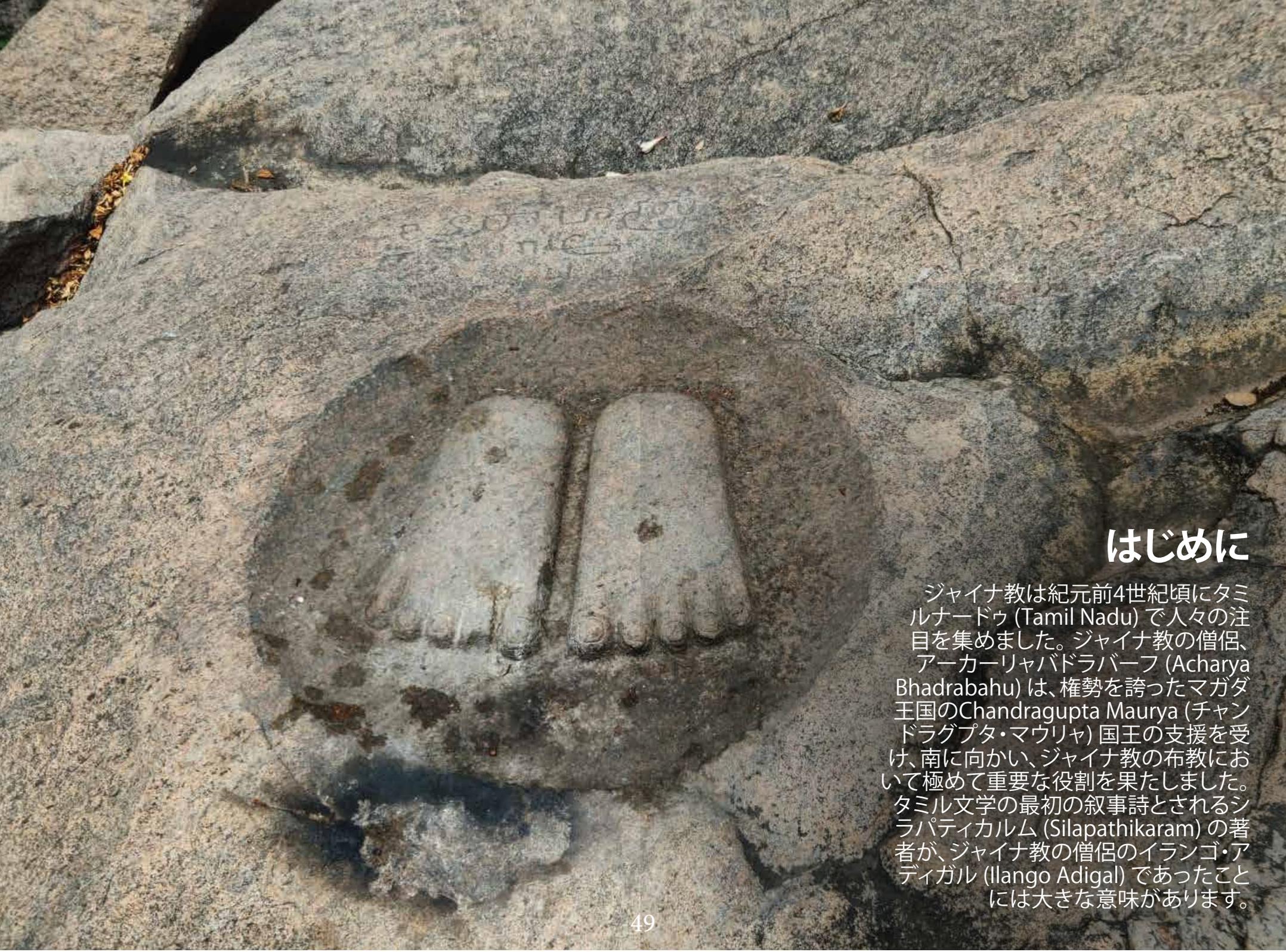


アリヤルール (ARIYALUR)

古代の寺院が点在するアリヤルール (Ariyalur) では、仏教の教えが広がり始めた1025年にチョーラ朝の首都がガンガイコンダ・チョーラプラム (Gangaikonda Cholapuram) に遷都されます。シヴァ神を深く信仰していたラジェンドラ・チョーラ (Rajendra Chola) 1世も仏教を手厚く支援しました。この地ではパズパール (Pazhuppar) と呼ばれる古代の仏像が見つかり、ジャヤンコンダム (Jayankondam) には菩薩像が祀られています。さらに、アリヤルール地区のヴィッキラマンガラム (Vikkiramangalam) には2体の古代の仏像が保管されています。



ジャイナ教の物語



はじめに

ジャイナ教は紀元前4世紀頃にタミルナードゥ (Tamil Nadu) で人々の注目を集めました。ジャイナ教の僧侶、アーチャーリヤバドラバーフ (Acharya Bhadrabahu) は、権勢を誇ったマガダ王国のChandragupta Maurya (チャンドラグプタ・マウリヤ) 国王の支援を受け、南に向かい、ジャイナ教の布教において極めて重要な役割を果たしました。タミル文学の最初の叙事詩とされるシリパティカルム (Silapathikaram) の著者が、ジャイナ教の僧侶のイランゴ・アディガル (Ilango Adigal) であったことには大きな意味があります。



லகூஸ்சர்

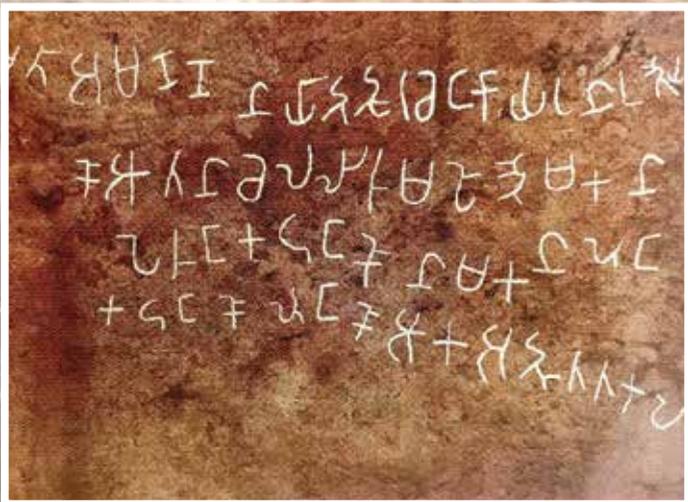
அரிட்டாபதி

குடைவரை சிவன்கோயில்

விநாயகர்

アリタパティ、マドゥライ (ARITTAPATI, MADURAI)

マドゥライ (Madurai) 空港から30キロ、マドゥライ駅から16キロの場所にあるアリタパティ(Arirtapati) 村は、マドゥライ地域の歴史において中心的な役割を担ってきました。2000年以上の歴史的・考古学的価値を持つタミルナードゥ (Tamil Nadu) の伝統的な交易路に位置しており、ジャイン (Jain) 洞窟で見つかった2世紀のブラハミ碑文や8世紀のパンディアロックカット (Pandya Rock Cut) 寺院に加え、部分的に破損しているパンディア (Pandya) 石碑が置かれた13世紀建立の寺院など、注目スポットが点在します。



タミルブラーミの碑文、カルール (TAMIL BRAHMI INSCRIPTIONS, KARUR)

タミルブラーミ (Tamil Brahmi) の碑文には、チェラン・イーラン・カードゥングコ (Cheran Ilan Kadungko) 王子がジャイナ教の僧侶であるセンガヤン (Sengayan) のためにこの丘に岩盤を作らせたと記されています。また、その他の碑文には、ジャイナ教の僧侶の名に加え、塩商人や金細工職人と言った支援者の名前が刻まれています。この岩盤はコーヤンブトゥール (Coimbatore) 空港から176キロ、カルール (Karur) 駅から35キロの場所に位置しています。

ティーロキヤナサージーナスワミ寺院 (TIRLOKYANATHAR JEENAS- WAMI TEMPLE)

チェンナイ (Chennai) 空港から78キロ、カーンチープラム (Kancheepuram) 駅からはわずか3キロ進んだ場所にあるティーロキヤナサージーナスワミ (Tirlokyanathar Jeenaswami) 寺院は、6世紀にパツラヴァ朝の国王の命で建立され、豊かな歴史を持ちます。宗教・教育・社会の中心地であるヴィドゥヤスサナ (Vidya Sthana) として繁栄していました。クロトウンガ・チョーラ (Kulotunga Chola) 1世とヴィクラム・チョーラ (Vikram Chola) によって記された碑文は有名で、その重要性を深く印象づけています。また、この寺院には、アディナス (Adinath) やネミナス (Neminath)、ヴァルダマン (Vardhman)、ヤクシ・アムビカ (Yakshi Ambika) などのティールカンタラ (Tirthankara) を描いた複雑な曼荼羅絵が飾られています。



ティルマライ、ティルヴァンナーマライ (TIRUMALAI, THIRUVANNAMLAI)

ティルマライ (Tirumalai) は古代ジャイナ教の中心地であり、バードラバフ (Bhadrabahu) を含む、約8,000人の僧侶が涅槃に達した場所です。ヴリシャブセナクリヤ (Vrishabhshenachrya) をはじめとする崇拝された聖人の足跡のほか、クンサアヴァイジャイナラヤ (Kunthavai Jinalaya) 寺院とラジェンドラ・チョーラ (Rajendra Chola) 1世の供え物に言及する1024年に刻まれた碑文の存在は、この地の重要性を示しています。チェンナイ (Chennai) 空港からは156キロ、ティルヴァンナーマライ

(Thiruvannamlai) 駅から46キロの場所に位置しています。





サマナマライ、マードゥライ (SAMANAMALAI, MADURAI)

マードゥライ (Madurai) 空港からは20キロ、マードゥライ 駅から11キロの場所にあるこの景勝地は、美しい蓮の池を持つサマナマライ (Samanamalai) の丘の麓に位置します。当地では9世紀から10世紀にジャイナ教が繁栄していたことを裏付ける3点の重要なジャイナ教の遺跡が見つかっています。また、マードゥライに8つある古のジャイナ教の丘の1つとして崇拝されています。

ティラッコイル、ティルヴァンナーマライ (THIRAKKOIL, THIRUVANNAMALAI)

チェンナイ (Chennai) 空港から114キロ、ティルヴァンナーマライ (Thiruvannamalai) 駅から70キロの場所にあるティラッコイル (Thirakkoil) の丘には、3つの小さな洞窟があります。8世紀には、これらの3つの洞窟でジャイナ教の僧侶が暮らしていました。高さ約7.6メートルの一枚岩には4人のティールタンカラの偶像 (マハヴィーラ、パーシャヴァ、リシャブハ、チャンドラナサー) が見事に彫られています。この場所は、10世紀まではタンダプーラム (Thandapuram) と呼ばれていました。



活気に溢れた祭の物語



ジャッリカトゥ (JALIKATTU)

ジャッリカトゥ (Jalikatthu) の牛追い祭は、元々は牛の抱擁を意味するエルサンズヴァザル (eru thazhuvuthal) と呼ばれていました。この行事はポンガル (Pongal) の祭りの3日目に行われます。Tamil (タミル) の元気な雄牛の健康を願ってマルサム (Marutham) の平原で始まった古くからの伝統行事です。



ポンガル (PONGAL)

ポンガル(Pongal)は4日間続くタミルの祭りであり、農村の収穫期に合わせて行われます。この祭りは農業をする上で必要な活力の源となる自然に感謝するために執り行われ、太陽や牝牛、牡牛、そして、農業を支えるその他の家畜が感謝の対象となります。



クラサイドウッセラ (KULASAI DUSSEHRA)

クラセカラパッティナム (Kulasekarapattina) の集落が、10日間続くドウッセラ (Dussehra) の祭りのために様変わりします。工夫を凝らした衣装やアンマンの化身と化される装いをした数十万人の信者が、祭りに参加するためにこの村に集います。



魅力的な芸術の物語

バラタナティウム (BHARATANATYAM)

バラタナティウム (Bharatanatyam) はタンジャーヴール (Thanjavur) の寺院で発展した古典舞踊です。サディラッタム (Sadirattam) を起源としており、演劇や音楽、文学や詩を取り入れています。





テルクッチュ (THERUKOOTHU)

路上演劇とも呼ばれるテルクッチュ (Therukoothu) は、タミルサンガム文学のシーンを描く躍動感のある衣装と化粧をまとった芸術家たちによる、形式にはこだわらない路上の舞踏演劇です。数世紀にわたって続くテルクッチュは娯楽の域を超えて、踊りを通してタミル流の生き方を称える役目を持ちます。



カラガッタム (KARAGAATTAM)

カラガッタム (Karagaattam) は、雨の女神であるマリアマン (Mariamman) を賛美するためのタミルナードゥ (Tamil Nadu) の古典民族舞踊です。この踊りには2つの種類があります。1つは娯楽として主に行われるアータ・カラガム (Aatta Karagam) で、もう1つは宗教的な奉納品として寺院のみで行われるサクティ・カラクガム (Sakthi Karagam) です。



工芸品の物語

アタングディのタイル (ATHANGUDI TILES)

アタングディ (Athangudi) のタイルはモザイクを彷彿とさせるセメントタイルです。しかし、機械で印刷し、生産するモザイクとは異なり、ガラスの表面を使って手作りで生産されています。主にチェッティナド (Chettinad) 地区のアダングディ村で作られ、伝統と威光が世代を超えて引き継がれています。



スワミマライのブロンズ彫刻 (SWAMIMALAI BRONZES)

古来から伝わるブロンズ彫刻技術により、タンジャヴー (Thanjavur) 近郊の小さな村、スワミマライ (Swamimalai) は世界中に知られる存在になりました。依頼の絶えないブロンズ像は、気品と精密さを兼ね揃え、専門技能と職人技、職人たちの芸術的感性による賜物です。同地の工芸品は、世代を超えて受け継がれ、1100年以上の歴史を持ちます。



タンジャヴーの人形 (THANJAVUR DOLLS)

伝統的にカヴェリ (Kaveri) 川で取れた粘土を使って作られるこの人形は、石の土台ではなく、砂の上に建てられたペルヴダイヤー・ゴプラム (Peruvudaiyar Gopuram) のデザインにヒントを得ています。地震が起きても、構造にひびが入らなければ左右に揺れて、元の位置に戻る仕組みです。

ナチヤール・コヴィル・クトゥヴィラク (NACHIYAR KOVIL KUTHUVILAKU)

一連のディヤで作られた真鍮製の装飾用のランプです。この工芸品はナチヤール・コヴィル (Nachiyar Kovil) のパター (カマラール) 集落のみで作られています。この空洞構造の鋳造ランプはさまざまな大きさとで作られ、4点のパーツをネジで留めます。





カンチプラムのサリー (KANCHIPURAM SAREES)

カンチプラム (Kanchipuram) のサリーは幅広い縁辺対比のボーダー柄が特徴です。このサリーは純正のマルベリーシルクのみを使って織られます。多くの女性がこの地で作られたサリーを結婚式で着用します。およそ5,000の家族がサリーの生産に関わっていると言われています。



美食の物語

ランチ (LUNCH)

タミルナードゥ (Tamil Nadu) の郷土料理を楽しむレストランや食堂では、一般的に「フルミール」と言われる昼食を提供しています。フルミールは、祝祭、結婚式、その他特別な式典では必ず振る舞われます。





フィルターコーヒー (FILTER COFFEE)

フィルターコーヒーは、泡立てたミルクと沸騰させたミルクを伝統的なインド式フィルターで細かく挽いたコーヒーの粉の煮汁と混ぜ合わせて作られます。このコーヒーはインド国外ではマドラス (madras) フィルターコーヒーと呼ばれています。

コヴィルパッティ カダライミッター (KOVILPATTI KADALAI MITTAI)

2020年4月に、コヴィルパッティ カダライミッター (Kovilpatti Kadalai Mittai) にGIタグが付与されました。このシンプルなお菓子は、大きなトレイの上に焼いた落花生を並べ、その上にヴェラパーグ (溶かしたヤシのシロップ) をかけたものです。シロップが固まると、落花生のキャンデーになります。

ティルネルヴェリハルワ (TIRUNELVELI HALWA)

ティルネルヴェリ (Tirunelveli) を代表するハルワ(Halwa) は、インドのお菓子です。ティルネルヴェリのハルワは、小麦、砂糖、牛乳を独自の配合で混ぜ合わせ、ギーを入れた樽で調理します。そして、熱々のゼリーとして提供します。

ティフィン (TIFFIN)

ティフィン(Tiffin)は朝食・夕食の一部としてタミルナードゥ(Tamil Nadu)全域で食べられている、何にでも合うお米の魅力を再認識できる料理です。お米とともにサンバル、レンズ豆ベースのシチュー、ココナッツやトマト、タマリド(豆)やピーナッツなどの各種のチャツネが添えられます。





マドゥライ ジガルサンダ (MADURAI JIGARTHANDA)

牛乳、練乳、ミルクアイスなど、さまざまな形状の牛乳が、ジガルサンダ (Jigarthanda) のベースとなります。カダルパッシ (kadal paasi) と呼ばれるアーモンドピジンが食感を、サルサパリーラ根から採取されたナンナリ・サルバスが甘味を加えます。



爽快な冒険の物語



カイトサーフィン (KITE SURFING)

タミルナードゥ (Tamil Nadu) は風が強い地域であり、カイトサーフィンのようなスポーツには理想的です。トゥートゥクディ (Thoothukudi) やマナパド (Manapad) の海岸に吹く風を求めて、カイトサーフィンの愛好家が集います。

マウンテンバイク (MOUNTAIN BIKING)

オフロードや岩の多いゴツゴツとした場所でマウンテンバイクに乗れば、アドレナリンが溢れてきます。タミルナードゥ (Tamil Nadu) にはマシナグディ (Masinagudi) やウーッティ (Ooty)、クーンノール (Coonoor)、コダイカナル (Kodaikanal) を巡る人気のマウンテンバイキングコースが点在します。



スキューバダイビング (SCUBA DIVING)

海の生き物を探すなら、スキューバダイビングやシュノーケリングが最適です。ラーメッシュワラム (Rameshwaram) やチェンナイ (Chennai) がおすすめのダイビングスポットです。この海域では、さまざまな在来魚や軟体動物、ウミガメ、そしてジュゴンやイルカといった海洋哺乳類が生息しています。

サーフィン (SURFING)

海岸の小さな漁村、コバラム (Kovalam) は、インドの新しいサーフィンスポットとして注目されています。天候の面でも波の高さにおいても、年齢を問わずビギナーには最適な場所です。

パラグライディング (PARAGLIDING)

パラグライディングは、高地で行われるアドベンチャースポーツです。1人で、もしくは熟練したパラグライダーと一緒に空を飛べます。イエーラギリ (Yelagiri) やイエールカードゥ (Yercaud)、コダイカナル (Kodaikanal) でパラグライディングを楽しめます。



タミル・ナドゥ州政府観光課

Tamil Nadu Tourism Complex
No. 2, Wallajah Road, Chennai, India - 600002

電話番号: +91 44 25333444

Eメール: tourism@tn.gov.in

SCAN TO VISIT US



tamilnadutourism.tn.gov.in



[tntourismoffcl](https://www.facebook.com/tntourismoffcl)



[TamilnaduTourismOnline](https://www.youtube.com/TamilnaduTourismOnline)